

特別
企画

Q&Aで学ぶ 金融ジェロントロジー の基礎知識

前田 展弘

株式会社ニッセイ基礎研究所
生活研究部 ジェロントロジー推進室

超高齢化が進む日本においては、それに比例して認知機能が低下する人口も増加の一途をたどっています。この認知機能の低下によって生じる問題の1つに、「老年期の資産管理・運用」が挙げられます。そこで本特別企画では、「金融老年学」とも呼ばれる「金融ジェロントロジー」について、担当者が押さえておきたい基本的な知識をQ & A方式で解説します。



「ジェロントロジー(Gerontology)」とは、ギリシャ語で「高齢者」を意味する「Geront」に「学」を意味する「ology」がついた造語で、日本では主に「老年学」と訳される学問(研究分野)です。ジェロントロジーは、AGING^①、つまり個人の「加齢(年をとること)」と、社会の「高齢化」を研究対象として、高齢社会における個人と社会の様々な課題を解決することを目的としています。

非常に幅広い分野をカバーする学問のため、本稿で詳細まで説明することはできませんが、大まかな理解として「高齢者」及び「高齢社会」について幅広く研究する学問^②と捉えてもらえたらと思います。

高齢者の経済活動に関する課題解決のための研究分野

日本では、東京大学(※1)をはじめいくつかの大学と研究機関でジェロントロジーの研究が進められています。「金融ジェロントロジー」(Financial Gerontology)はその中の1つの分野で、文字どおり、「金融(お金)」に関する研究分野で、「高齢者の経済活動に関連する諸課題の解決」を目的としています(図表1)。

世界に目を向けると、1980年代に米国で「Financial

Q1

「金融ジェロントロジー」ってなに?

「金

融ジェロントロジー」

という言葉を初めて耳にする方も多いかもしれませんが、まず「ジェロントロジー」の意味から説明していきます。

説明することはできませんが、大まかな理解として「高齢者」及び「高齢社会」について幅広く研究する学問^②と捉えてもらえたらと思います。